

# 注 意 報

2 病 第 1 5 号  
令和2年6月24日

関係各位

京都府病虫害防除所長  
(公 印 省 略)

病虫害発生予察情報について

下記のとおり発表しましたので送付します。

## 発生予察注意報第2号

### 果樹カメムシ類の予察灯等への飛来が急増しています。

- 1 作物名 果樹全般（ナシ、ブドウ、カキ、カンキツ類など）
- 2 病虫害名 果樹カメムシ類（チャバネアオカメムシ、ツヤアオカメムシなど）
- 3 発生地域 全域
- 4 発生時期 5月下旬～
- 5 発生量 多い
  
- 6 注意報発令の根拠
  - (1) チャバネアオカメムシの越冬量は、京都市及び南丹地域は平年並、京丹後市で平年比やや多い（表1）。
  - (2) 6月中旬の巡回調査ではナシでカメムシ被害果率がやや多い発生となっている。
  - (3) 6月第3半旬現在、チャバネアオカメムシの予察灯（ブラックライト、以下BL）への誘殺数は京田辺市で平年比やや多く、亀岡市及び京丹後市で平年比多い（表2）。
  - (4) 6月第3半旬現在、チャバネアオカメムシのフェロモントラップへの誘殺数は京田辺市、亀岡市、京丹後市いずれも平年比やや多い（表3）
  - (5) 6月第3半旬現在、クサギカメムシの予察灯（BL）への誘殺数は京田辺市及び亀岡市で平年比多く、京丹後市で平年並（表4）。
  - (6) 6月第3半旬現在、ツヤアオカメムシの予察灯（BL）への誘殺数は京田辺市、亀岡市、京丹後市いずれも平年比多い（表5）。
  - (7) 6月18日発表の近畿地方の気象1か月予報では、気温は高く降水量は平年並か少ないとされ、カメムシ類の活動に適した条件となる見込みである。
  
- 7 防除上の注意事項
  - (1) ナシの有袋栽培では被害を防ぐため、早急に袋掛けをすませること。また、その際には袋を果実と密着させないように注意すること。
  - (2) カメムシ類は局地的に発生し被害をもたらすこともあるので、園内外の成虫発生状況をこまめに観察し、発生を認めたら早めに防除すること。特に、山林等の隣接園では注意が必要となる。
  - (3) カメムシ類は、夜温が高く風の弱い日の日没頃に多く飛来するので、そのような日の

夕方に薬剤散布を行うと効果的である。

- (4) 合成ピレスロイド剤の連用は、ハダニ類やカイガラムシ類が多発する恐れがあるので避けること。
- (3) 薬剤防除に当たっては薬剤の使用時期（収穫前日数）に十分注意する（表6～9）。  
 なお、最新の農薬情報は農林水産省ホームページの「農薬コーナー」の「農薬情報」  
<http://www.maff.go.jp/j/nouyaku/index.html> を参照のこと。



チャバネアオカメムシ      クサギカメムシ      ツヤアオカメムシ  
 写真 果樹を加害するカメムシ類

表1 越冬調査(チャバネアオカメムシ)

地域	本年	平年値
京都市及び南丹地域	0.20	0.40
京丹後市	0.50	0.36

※平均生存個体数（頭/地点）

表2 予察灯(BL)への誘殺状況(チャバネアオカメムシ)

場所	本年	平年値
京田辺市	41	8.7
亀岡市	51	2.3
京丹後市	76	11.7

※誘殺数：5月第4半旬～6月第3半旬の合計値

表3 フェロモントラップへの誘殺状況(チャバネアオカメムシ)

場所	本年	平年値
京田辺市	8.3	2.6
亀岡市	81.0	30.3
京丹後市	13.6	4.5

※誘殺数：5月第4半旬～6月第3半旬の合計値

表4 予察灯(BL)への誘殺状況(クサギカメムシ)

場所	本年	平年値
京田辺市	2	0.2
亀岡市	1	0.1
京丹後市	0	0.7

※誘殺数：5月第4半旬～6月第3半旬の合計値

表5 予察灯(BL)への誘殺状況(ツヤアオカメムシ)

地域	本年	平年値
京田辺市	30	3.8
亀岡市	14	0.3
京丹後市	41	0.4(注)

※誘殺数：5月第4半旬～6月第3半旬の合計値

(注) 京丹後市の平年値はH23～R元の9ヶ年の平均  
 (平年値・・・直近10年の平均)

表6 「ナシ」でカメムシ類に登録のある主な薬剤(令和2年6月23日現在の登録内容)

IRACコード※	農薬名	希釈倍率	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	同一成分を含む農薬の総使用回数
1B	スミチオン水和剤40	800～1,000	(有袋)収穫14日前まで (無袋)収穫21日前まで	6回以内	散布	6回以内
	スプラサイド水和剤	1500	(有袋)収穫7日前まで (無袋)収穫21日前まで	3回以内 2回以内	散布	3回以内 2回以内
3A	ロディー水和剤	1000	収穫前日まで	2回以内	散布	7回以内(噴射は5回以内、散布は2回以内)
	テルスター水和剤	1000～2000	収穫前日まで	2回以内	散布	2回以内
	テルスターフロアブル	3000～6000				2回以内
	アグロスリン水和剤	1000～2000	収穫前日まで	3回以内	散布	3回以内
	MR. ジョーカー水和剤	2000	収穫14日前まで	2回以内	散布	2回以内
4A	アクタラ顆粒水溶剤	2000	収穫前日まで	3回以内	散布	3回以内
	アドマイヤー水和剤	1000	収穫3日前まで	2回以内	散布	2回以内
	アドマイヤー顆粒水和剤	5000～10000				
	ダントツ水溶剤	2000～4000	収穫前日まで	3回以内	散布	3回以内
	モスピラン顆粒水溶剤	2000～4000	収穫前日まで	3回以内	散布	3回以内
	スタークル(アルバリン)顆粒水溶剤	2000	収穫前日まで	3回以内	散布	3回以内

表7 「ブドウ」でカメムシ類に登録のある主な薬剤(令和2年6月23日現在の登録内容)

IRACコード*	農薬名	希釈倍率	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	同一成分を含む農薬の総使用回数
4A	ダントツ水溶剤	2000~4000	収穫前日まで	3回以内	散布	3回以内
	スタークル(アルバリン)顆粒水溶剤	2000	収穫前日まで	3回以内	散布	3回以内(塗布は1回以内)

表8 「カキ」でカメムシ類に登録のある主な薬剤(令和2年6月23日現在の登録内容)

IRACコード*	農薬名	希釈倍率	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	同一成分を含む農薬の総使用回数
1B	スミチオン水和剤40	800~1000	収穫30日前まで	3回以内	散布	3回以内(樹幹処理は2回以内)
	スプラサイド水和剤	1500	収穫30日前まで	3回以内	散布	3回以内
3A	ロディー水和剤	1500	収穫7日前まで	3回以内	散布	8回以内(噴射は5回以内、散布は3回以内)
	テルスター水和剤	1000~2000	収穫14日前まで	2回以内	散布	2回以内
	テルスターフロアブル	3000~6000	収穫3日前まで	3回以内	散布	3回以内
	アグロスリン水和剤	1000~2000	収穫前日まで	3回以内	散布	3回以内
	アーデント水和剤	1000	収穫7日前まで	3回以内	散布	3回以内
	MR. ジョーカー水和剤	2000	収穫14日前まで	2回以内	散布	2回以内
4A	アクタラ顆粒水溶剤	2000	収穫3日前まで	3回以内	散布	3回以内
	アドマイヤー水和剤	1000	収穫7日前まで	3回以内	散布	3回以内
	アドマイヤー顆粒水和剤	5000~10000				
	ダントツ水溶剤	2000~4000	収穫7日前まで	3回以内	散布	3回以内
	モスピラン顆粒水溶剤	2000~4000	収穫前日まで	3回以内	散布	3回以内
	スタークル(アルバリン)顆粒水溶剤	2000	収穫前日まで	3回以内	散布	4回以内(但し、塗布は1回以内、散布は3回以内)

表9 「カンキツ」でカメムシ類に登録のある主な薬剤(令和2年6月23日現在の登録内容)

IRACコード*	農薬名	希釈倍率	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	同一成分を含む農薬の総使用回数
1B	スプラサイド水和剤	1500	(みかんを除く) 収穫90日前まで	4回以内	散布	4回以内
			(みかん) 収穫14日前まで			4回以内(50~100倍希釈散布は2回以内)
3A	テルスター水和剤	1000~2000	収穫前日まで	3回以内	散布	3回以内
	テルスターフロアブル	3000~6000				
	MR. ジョーカー水和剤	2000				
4A	アクタラ顆粒水溶剤	2000	収穫14日前まで	3回以内	散布	3回以内
	ダントツ水溶剤	2000~4000	収穫前日まで	3回以内	散布	6回以内(樹幹散布は3回以内、散布は3回以内)
	モスピラン顆粒水溶剤	2000~4000	収穫14日前まで	3回以内	散布	3回以内
	アドマイヤーフロアブル	2000~5000	収穫14日前まで	3回以内	散布	3回以内
	アドマイヤー顆粒水和剤	5000~10000				
	スタークル(アルバリン)顆粒水溶剤	2000	収穫前日まで	3回以内	散布	3回以内

\*IRACコード…殺虫剤コード。殺虫剤の有効成分を作用点と作用機構から分類した番号や記号のことで、本コードが異なる薬剤を使用することにより、同一系統の薬剤の連用を防ぐことができる。